

塩おにぎり

石巻市立広瀬小学校 3年 柴田 亜美

東日本大震災から6年8ヵ月。あの時のことは今もわすれません。きょうふはもちろんあの時にたすけてくれたみんなのやさしさも心にしっかりとのこっています。

大きな地震の後、わたしのすんでいる所では、水も電気も止まってしまいました。こんなけいけんは、初めてでした。ガスは使っても、水がなければお米はたけません。食べるものがなくなっておなかのすいてきてごはんが食べたくなりました。でも、ありません。

数日後、お母さんの友達がさし入れをしてくれました。今までふつうに食べていたあたたかい塩おにぎりを私の手のひらにのせて、「たくさん食べなよ。なくなったらまたあげるからね。」と言ってくれました。

私は、夜暗くなってからすみの方でこっそりと食べました。こんなおいしい塩おにぎりを食べたのは初めてでした。私はおにぎりのあたたかさと、お母さんの友達の心のあたたかさの両方をうけ取って、この日の夜はねむることができませんでした。

今、田んぼではいなほが頭をたれ始めています。お米のありがたさを感じる時です。あの時、たすけ合う心を日本の主食であるごはんを通して、学びました。ごはんは心をエネルギーでいっぱいにして元気をあたえてくれます。これからもごはんをたくさん食べて、わたしの心を体のパワーのみなもとにしていきたいと思っています。